

平成29年度 横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 平成29年 8 月25日（金） 10時～12時
- 2 場 所 横浜市大佛次郎記念館会議室
- 3 出席者 金 侑可 委員、富岡 幸一郎 委員、中島 秀男 委員、八ッ橋 治郎 委員、米本 良子 委員
(50 音順)
- 4 欠席者 無し
- 5 傍聴者 0名

6 議事内容

議題	(1)平成28年度業務評価関係資料の説明 (2)指定管理者へのヒアリング
委員意見等	<p>1 開会</p> <p>(1) 定足数の確認 委員数5名のうち5名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。</p> <p>(2) 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例 第31条及び横浜市大佛次郎記念館指定管理者選定評価委員会運営要綱 第9条に基づき、公開とした。</p> <p>(3) 委員長の互選について 委員の互選により中島委員を委員長に選出した。</p> <p>2 議題「平成28年度業務評価」</p> <p>(1) 評価関係資料について</p> <p>ア 評価資料及び評価方法の確認 事務局から、評価に使う資料、評価方法について説明があった。</p> <p>イ 指定管理者業務実績について 指定管理者から、業務報告書に基づき、平成28年度事業実績として、基本方針及び達成目標の総括、事業、運営、管理及び収支決算などについて、実績の説明があった。</p> <p>ウ 自己評価及び行政評価について 評価表に基づき、指定管理者から自己評価について、事務局から行政評価について、要点の説明があった。</p> <p>(2) 指定管理者へのヒアリング（以下「・」及び「→」は委員、「○」及び「⇒」は指定管理者、「➡」は市）</p>

委員から指定管理者に呈する質疑応答及び評価内容（評価できる点、改善すべき点）の説明を行った。

「Ⅰ文化事業」について

《質疑》

- ・利用者アンケートには厳しい意見もあったとのことだが、どのような意見か。
⇒「展示内容にて扱われている人物が知らない人ばかりだ」というものだ。当方は、皆さまに知ってもらいたいという気持ちがあり、また、ある程度大佛次郎の著作等について既知であることを前提として説明するので、観覧者にとっては魅力が伝わりづらかったと考えている。
- ・レファレンスが増加した理由は何か。今後の対応数の目標はいくつか。
⇒レファレンスは相手方から頂くものなので、当方からの働きかけが難しい。質問しやすい雰囲気作りや時間設定を心がけた。また、毎月のギャラリートークの説明後に意見や質問を受ける時間を設けた結果が出たのではないかと。目標値は週に約1回という想定からの積み上げの数値と考えられるが、今後は昨年度実績を出発点とすることになるのではないかと。

《評価内容の説明》

【評価できる点】

- ・様々な層に向けた企画展示が実施された点が大変評価できる。その結果が年間の観覧者数の大きな伸びに反映されたのではないかと。視察の際に説明をいただき、展示自体も大変丁寧に行われていて、中身が大変濃いもので満足度の高いものだった。地域とのネットワークの構築も進んでいるということで、今後も長期的に継続されることを望みたい。
- ・全体として様々な企画に工夫が生かされ、入館者数も2万人に増え、非常に評価できる。視察により大佛次郎の文学の持つ広さを感じた。特にフランス関係の展示等、大佛氏がフランスの歴史と文学にいかに深く関わっているかを改めて知った。
- ・多くの企画が実施されており充実していた。アンケートの「展示で扱われている人物が知らない人ばかりだ」というのも、本来記念館としてやることを行うと観覧者数は昨年度実績の数字となるのだろう。狙う対象はどこなのか、できることとすべきことのバランスが見えてきた1年ではないかと。
- ・観覧者数の目標値を大幅に上回ったことは大変評価できる。新しい企画にも積極的に取り組まれている。
- ・一つ一つ取り組んだことが、この館の設置趣旨の具体化という点で非常に効果が出ており、価値のある取り組みだった。それが施設の周知につながると思うので、ぜひ進めてもらいたい。
- ・展示内容がよい形で掘り下げられている。展示ケースのあり方や資料のそろえ方は色々な工夫が必要になると思う。

	<p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規事業の企画、開催に伴い業務過多となり、マンパワー不足を感じているとのことだったので、人員体制を早い段階で検討していただきたい。 ・大佛次郎研究会やフランス経済史研究会とコンタクトがあるということだが、他の日仏関係団体等と連携して何かできるのではないかな。また、資料収集のための人材が継続的に必要ではないかな。 ・SNSの活用には作業時間が必要だ。継続性のある企画が多いようなので、続けることで経験を積み、やりやすくなるのではないかな。 ・観覧者数が目標を上回った理由には、スタンプラリーや「ねこ写真展」があったと思う。「ねこ写真展」は新しい来館者をつかみ、館に関心を持ってもらう機会にできた。「ねこ写真展」は館の意志で継続可能だが、スタンプラリーは他が主体の事業なので、こういうイベントをリピーター増加や大佛文学への関心にどう結びつけるかが新しい課題ではないかな。また、9月は観覧者数が伸びなかった。9月は比較的連休も多いので、リピーターの呼び込みや、新規顧客開拓の点でイベントは一定程度必要ではないかな。また、「夏休み子どもアドベンチャー」が目標値を下回った。母親層は子どもの自由研究のために学校のチラシ等を見ることも多いので、自由研究に結びつくに関心を持たれるのではないかな。また、ハロウィンウォークはハロウィンのキャラクターに黒猫があったと思うので、猫とつなげた企画で結びつけられればよいのではないかな。大佛文学についてもハロウィンを機に読者が増えるような企画をしてはいいかな。 ・広報では、ウェブやSNSはまだフォロワー数も余りついていないような状況で、どのように運用するかが課題になる。テーマ展示の質のよさに対して入館者数が及ばない点が残念である。これは告知の問題なのか、新規来館者が増加しているというところで、親しみやすい企画を続ける等、ポイントを明確にしながら工夫する必要がある。場の利用では、同じ団体の利用等があると思うが、リピーター確保という意味合いで、一回利用した方にはアフターケアをしっかり行い、意見収集をしながら、次につなげるということをやった方がよい。 <p>「Ⅱ 施設運営」及び「Ⅲ 維持管理」について</p> <p>《質疑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己評価に記載の「展示品の照明がやや暗い」というアンケート結果について、解決済みなのか、より対応が必要な照明があるのか、あるいは実際はそこまで暗くはないのか。 <p>⇒アンケートには具体的な箇所は未記載だった。展示ケースを更新し、照明のLED化を進め、暗いと指摘があった箇所も明るくした。日常業務の範囲内で対応可能な場所是对応したと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の茶道部に和室の利用促進を図ったものの、学校側の希望条件に合わずに実施しなかったということだが、具体的な条件は何か。 <p>⇒茶道部の練習の場として、平日の利用に限ってとして案内したが、平日は放課後の課外活動は難しく、長期休みの期間がいいということだった。</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・「新しい文学館」というスローガンは、具体的な将来像があるのか、模索中なのか。 ⇒アンケート回答者は初来館の方が多い。文学館だけではないプラスアルファが求められていると感じている。 →記念館としてやるべき事業の観覧者数は計画の通りになると思う。プラスアルファとは、それ以外のものを提供することなのか。 ⇒文学館であることを期待していない方にも来てもらう方策を考えるということである。また、そういう方に作品を読む気になっていただくまでが本来の記念館の姿だと思う。 →記念館としての本質的な事業でなくとも、それとは別物で入館者数に重点を置いた事業を展開するという意味の新しさはあるのか。 ⇒提案書の数字がありきなので、何としてでも来館していただかなければという気持ちにはなっている。 →模索中の様々な企画だと理解してよいか。 ⇒敷居を下げる事業と本質を理解するために分かりやすく展示に面白みを持たせる事業の両方を模索している。敷居を下げることは、例えば子どもの時に来館し、大人になって再び来館する体験につながるとすれば意義がある。大佛次郎と直接関係ないからやらないのではなく、関連性を持たせながら敷居を下げた事業は今後も考えていきたい。 ○事業が多く人員的に大丈夫かということだが、支出は現時点で人件費が全体の57%であり、増員すると60%を超える。それが指定管理者制度としてよいのかということは議論があると思う。事業を減らす提案をした場合、委員会は受け入れる可能性があるか。 →設置者と指定管理者の関係の中で仕様に対してやれているかどうか、その上で、仕様の見直しに至るかどうかということではないか。今回の評価の観点では、当初の計画が実施できているか、計画を上回っている点と、今後改善が必要な点が明確になればいいのではないか。仕様の見直しの可否は、協議をしっかりとする必要があるのではないか。 ⇒例えば1人アルバイト増やすと、質的なものの効果測定も必要だが、金銭的には入館者を今の目標の約2倍にしないとカバーできない。そこを当方としてはきちんと精査し、再度委員会に提案したい。 →計画はローリングする必要があるので、提案時の計画がいい形で改善されることは当然ある。予算を精緻化する点でも必要なので、次年度の業務計画をどうするかも含めて、市との協議の場を持った方がいいのではないか。 ➡指定管理制度が開始し、提案内容に伴い運営していただいている業務内容が当初計画を上回る場合は協議をしつつ進め、運営する中で課題が出ればその時点で解決するシステムでやっていきたい。 →指定管理制度そのものが指定管理施設を必然的に業務過多に陥らせる。単独指名ではなく競争になる場合は、どんどん業務過多になる。そういうところは指定管理制度そのものの性質に含まれており、今の話は非常に重要で、検
--	---

	<p>討が必要だ。</p> <p>➡非公募での5年間の指定管理期間は、長期間のことをきちんと考えながらやっていくこともあつての単独指名になっている。</p> <p>→それが本当の意味での指定管理制度のプラス面である。</p> <p>→協議については設置者と指定管理者で行うこととする。</p> <p>《評価内容の説明》</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスで館紹介ビデオが放映開始になったことは、とてもいい取組である。展示ケースも更新し、館の魅力がさらに増したのではないかな。 ・ 運営の観点では安全面が重視されるので、ウッドデッキの新設は、プライオリティーが高く、重要なことであり評価したい。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 和室と会議室の利用率がまだ少ない。商業撮影等での利用もよいのではないかな。商業撮影等の積極的な利用についても広報していただきたい。 ・ 2階の展示ケースにぎっしり展示されており、学芸員から説明を受けて観覧すれば楽しめるが、大佛次郎自体をほとんど知らない方が展示を理解し、楽しむのは難しいのではないかな。予備知識のない方でも楽しめる展示方法にしたい。また、市内中小企業の発注件数の割合が未達だが、市内には新しい技術を持つ中小企業もあるということなので、企業と連携した新しい取組があれば話題になり、おもしろいものができるのではないかな。 ・ S u i c a は入館料の支払以外の使用が難しいということだが、S u i c a 利用者のデータの分析、活用は可能なのかな。また、館外入口に看板はあるものの、館を見つけにくいことがある。 ・ 記念館の広報や告知を工夫することが大事である。大学等とも連携をしながら、さらに工夫していただきたい。 ・ 維持管理について計画的に順位付けをし、具体的に計画していただきたい。 ・ ウェルカム感を出した方がよい。エントランスのモニターを見てもらうために工夫をしてほしい。維持管理では施設のライフサイクルコストの勘案が重要なので、設置者も入った形で、指定管理者側が会議を持った方がいいのではないかな。また、危機管理マニュアルについて、職員が緊急連絡網や危険箇所を含めたポケットハンドブックを携帯することをお勧めしたい。喫茶「霧笛」からは定期的な報告を受け、日常的な確認を行っていただきたい。 ・ 維持管理について、難しいところもあるだろうが、修繕のためにある程度まとまった期間が必要かもしれない。 <p>「Ⅳ 収支について」</p> <p>《質疑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 展示ケース購入は、指定管理制度になったため購入したのか。今までは購入で
--	--

	<p>きなかったのか。</p> <p>⇒そうである。非常に高価なものなので、これまで購入できなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示ケースの新調時期は当初はどのように考えていたか。 <p>⇒年度途中に購入する見込みを立てたが、結果として想定より支出が増えた。</p> <p>従来の展示ケースは照明や鍵もなく、展示品の細部の観覧ができなかった。</p> <p>事務局は市の文化政策事業及び市民サービスの向上等につながる修繕や設備更新へは投資し、最終的には収益を上げるという観点がある。館の赤字は、事務局でフォローした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、新調すべき展示ケース等はあるか。 <p>⇒ある。60万円を超える費用の分担は市なので、今後は市へ要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショップの売り上げ増とは、具体的にどの商品が売れたのか。 <p>⇒書籍よりもグッズ販売が中心となった。大佛次郎のオリジナルグッズより、猫関連の物が集めやすく気軽に購入できるので、比較的商品の回転がよい。</p> <p>《評価内容の説明》</p> <p>【評価できる点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ねこ写真展」では、来場者が購入したくなるようなグッズが取りそろえられていた。ショップの売上が予想を上回り、今後も期待していきたい。指定管理料のみに依存しない収入確保に向けて努力している点が評価できた。 ・ショップの売り上げも含め、収入が予算を上回ったことは大変評価できる。 ・収支は、指定管理者制度の導入により前向きになり、印税収入やショップの売り上げという点では活動成果が形になったと思うので、非常によかった。 <p>【改善が必要な点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ数の問題が大変そうだという印象を受けた。人数だけ見ると日常的には厳しいという雰囲気がある。何らかの改善も必要なのだろう。 ・指定管理制度は、数字でみることでできる項目を評価の基準とすると思うので、数字とマンパワーと効率性をどう両立するかが難しい。未達箇所でも提案したいことはあるが、実施可否が精査し切れない。効率性を高める方法があれば、数字を増やしやすいうものに特化して議論もしやすい。 ・事業計画に見合う予算計画かが課題である。計画に対する予算をどこまで精緻に作れるかが指定管理者の腕の見せどころである。予算化の仕組みは非常に難しいと思うが、実行計画とコスト計画の精緻化をぜひお願いしたい。 <p>V「その他」について</p> <p>《質疑》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記念館のロゴマークが数パターンあるがどういうことか。 <p>⇒過去にロゴの統一を検討したが、費用対効果の観点から実施しなかった。</p> <p>→名前のところがいつも同じに見えることが大事である。</p> <p>⇒フォントも確定していないので、すごく重要な課題である。</p>
--	---

→平仮名をふったロゴを見るが、そちらの方が読み方も分かり、印象もつくので、フォントも含めて統一されるといい。

⇒フォントは費用をかけずにできるので、対応したい。

→他の施設では、ビジュアル・アイデンティティを指定管理者として変えた。従来のイメージを刷新できるので、新しい文学館ということを標榜する際に、予算計画を立ててタイミングを図って行うことは必要かもしれない。

《評価内容の説明》

- ・職員の雰囲気が明るくなった。レファレンスの件でも、レファレンスしやすい雰囲気作りをしたとのことなので、それを大切にして利用者目線でやってもらえれば、この館はもっとよくなるだろうと思う。

「総括」について

- ・全般的に本当に精力的な取組が見られた。業務過多については、2年目以降で少しずつ要領を得て、システム化されて改良や緩和ができるものなのか、そもそも手間がかかり過ぎる業務があるのか、収入を維持しながら業務の簡素化等の要領をつかみ、健康管理にも留意していただきたい。
- ・業務過多について、自己評価と行政評価の総括の内容に少し違和感がある。何らかの行政側の対応を正面から受け取る必要がある。
- ・新しい文学館という話は非常に大切で、実際に方向性が出ていると思うが、今後は小説や映像、漫画等を含む大佛次郎作品や展示、大佛の影響を受けた次世代の作家等との関連を強く打ち出すことが一つの方向性だと思う。来年度は明治維新150年なので、市とも連携して「天皇の世紀」をクローズアップするとよい。
- ・昨年度の業務全体を見て、指定管理者が真摯に取り組んでいるのを感じた。大佛次郎という作家を普及したいという思いも伝わったので、今後ぜひ無理のない範囲で推進していただきたく、市民のためにも広げていただきたい。
- ・総じて目標を達成しており、入館者数増加や新規取組の実行は、指定管理者制度導入の1年目として非常によかったと評価したい。新しい取組をすると予期しないことが起こるということで、計画に対してスタッフの業務負荷が入ったところである。過重労働対策はしっかり立てる必要があるので、情報は確実に共有することが必要である。事務局と一緒にになった組織的な対応が重要であり、計画的な取組をチームワークよくやっていただきたい。

3 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。